

■ 平成25年11月6日～11月8日 文教くらし委員会県外調査(香川県・高知県・愛媛県)

1 11月6日 香川県庁<県議会事務局> (香川県高松市番町4丁目)

【調査目的】

プロバスケットボールチームと連携したスポーツの振興について

【調査概要】

プロチームと行政との協働したスポーツ施策について説明を受け、質疑応答を実施

<説明の概要>

- 県内には4つのプロスポーツチームがある。(バスケット、アイスホッケー、野球、サッカー)
- プロバスケットボールチームである、高松ファイブアローズは2006年のシーズンからbjリーグに参加。
- 地域貢献として、地域における各種イベントへ選手が積極的に参加している。
- 高松ファイブアローズを含めたプロスポーツチームと自治体との具体的な協働について。
  - ・ みんなでプロスポーツ観戦事業  
応援の楽しさを知ってもらうことにより、チームへの積極的な支援の機運を醸成  
スポーツ観戦DAYの実施(観客席の一部を無料開放)
  - ・ 香川県地域密着型スポーツ活用協議会の設立  
県及び県内8市9町が共同して、各スポーツチームが行う社会貢献活動(スポーツ教室の開催等)、遠征先での県・市町のPR等にかかる実施事業を委託。
  - ・ トップアスリート育成事業  
プロスポーツ選手を中学校・高校の運動部へ派遣。  
年間で4つのプロスポーツチームから、のべ350人を派遣している。

【質疑応答】

Q：試合に勝たないと、やはり集客は難しいのか？

A：勝てば来場者が増えるところまで、県民にバスケットボールが浸透していない模様。  
島根(スサノオマジック)などは、アウェイでもファンがまとまって迫力のある応援をしている。やはりそのようなチームは強い。

Q：行政からの予算負担は支援、補助金、出資、どのような形になっているのか？

A：事業(県のPR、スポーツ教室の開催等)をチームに委託するという形で支援している。  
助成金や補助金としての負担は困難。地域に不可欠な存在になることで、県民・市民がお金を出して支援することを納得してもらえるような仕掛けづくりも必要なのかもしれない。



## 2 11月7日 高知県立四万十高等学校（高知県高岡郡四万十町大正）

### 【調査目的】

自然環境を生かした環境教育の推進について

### 【調査概要】

四万十高等学校における取組内容について説明を受け、施設見学・質疑応答を実施

#### <説明の概要>

- 平成8年度に全国初の自然環境科を設置した群馬県立尾瀬高校と平成9年11月に姉妹校提携をしている。
- 自然科学系、自然環境系に進む人材（リーダー）の育成を念頭に置き、平成11年度に全国で2番目となる普通科自然環境コースを設置。
- 高知県では中山間地域の学校において、中高連携推進事業を実施しており、四万十高等学校は大正町、十和村の5中学校と教員の相互乗り入れを行っている。郡部にある当校においては、入学生は年々、減少傾向にある。  
また、身元引受人制度（保護者が県外に居住していても親戚等が身元引受人となる）により県外生の志願が可能となっている。学校の近隣に定員20名の寮を完備している。
- 自然環境学習に関して独自の科目設定を行い、生徒による研究活動（卒業研究）も実施。
- 全国高校生自然環境サミットが平成12年度から毎年度開催され、四万十高等学校が平成13年度及び平成21年度にホスト高校を努めている。平成21年度は全国13校の59名、地元中学生7名が参加。  
※ホスト高校→生徒全員から実行委員を選出し、企画及び運営を行う。

### 【質疑応答】

Q：現在、高知県では学区制をとっていないのか？

A：平成24年度の入学試験から学区制を廃止し、全県一区とした。それまでは県内4つの学区に分かれていた。

Q：在籍生徒の出身中学校をみると、神奈川県から毎年1名ずつの入学者がいるが、何か特別なつながりがあるのか？

A：当校と神奈川県において、特別なつながりがあるわけではないのだが、出身中学校が別々であるものの、神奈川県から最近3年間では毎年入学者がいる。

Q：他県でPR等をするにより、受験者を募ったりしているのか？

A：東京のアンテナショップや地元の道の駅にパンフレットを置いたり、ホームページによる情報配信を行っている。



### 3 11月8日 えひめエコ・ハウス<愛媛県体験型環境学習センター> (愛媛県松山市西野町)

#### 【調査目的】

ソフト・ハード両面からの環境行政の推進について

#### 【調査概要】

えひめエコ・ハウスにおける取組内容について説明を受け、施設見学・質疑応答を実施

#### <説明の概要>

- 平成15年4月22日に開設され、今年4月には10周年イベントを実施。  
※4月22日→アースデイ
- 一般家庭、企業で導入可能な地球温暖化防止技術の体験の場を提供するとともに、環境学習及び環境保全活動の支援を実施。
- 平成24年度の来館者数は21,747人で開館以降、過去最高となった。  
季節の良い時には、隣接する「えひめこどもの城」への来場者が多く、それに伴って当施設への来訪者も増える傾向にある。
- 現地研修として、毎年夏休みに四国電力の協力により発電所の見学ツアーを実施。  
平成24年度は火力及び太陽光発電所、平成25年度は水力発電所を見学。  
平成25年度は広く開催を告知できたので、約200名の応募があったが、定員の関係もあり113名の参加となった。
- えひめエコ・ハウスでは環境マイスターの認定を行っており、現在までに認定したのは約100名。マイスターは講師として環境学習の場(学校、幼稚園、教育関係の団体、企業、イベント)に派遣。平成24年度の派遣実績は37件。

#### 【質疑応答】

Q：来館者はどのあたりから来られているのか？

またリピーターは多いのか？

A：来館者の約7割が県内。夏休み、ゴールデンウィークは県外からも来館される。

統計はとっていないが、リピート率は高いと実感している。

新聞・テレビでも広報しているが、口コミによる宣伝が大きい。

Q：運営にかかる経費(指定管理委託料)はどのくらいか？

また、何人ぐらいのスタッフで運営しているのか？

A：年間の経費は、各種の事業費を含み1,000万円。

スタッフについては常駐が3名、その他のセンター長、リーダーは「えひめこどもの城」と兼務している。来場者の多い週末やイベントの際は、ボランティアにも手伝ってもらっている。

